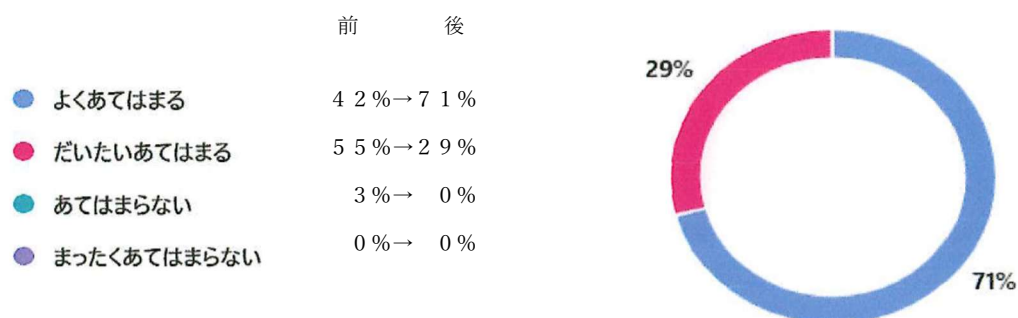


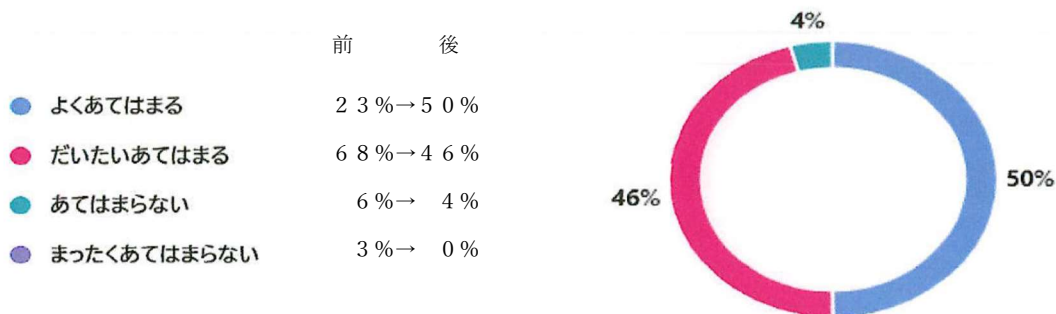
令和6年度 学校評価アンケート（後期）教職員集計結果

1. 日課時程や教科時数は、適切に確保され年間計画に沿った指導を行っている。



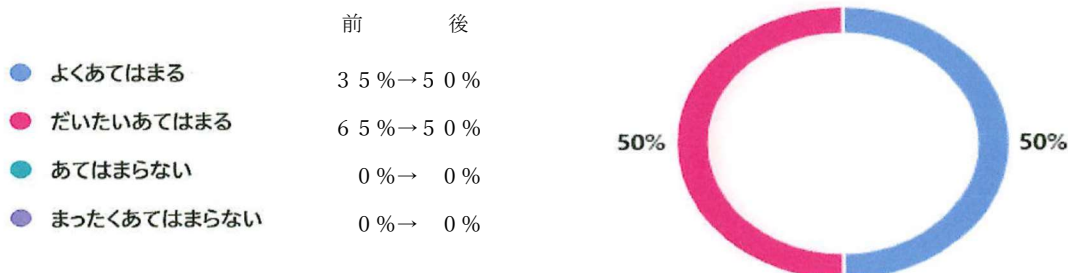
全員の教職員が、日課時程や教科時数が適切に確保されていると評価している。来年度以降も効果的な学校行事の実施、日課時程の工夫、年間計画に基づく教育課程の実施を行っていく。

2. 各種会議・研修・児童会活動などは、適切に位置づけられ、意図的・計画的・組織的に活動している。



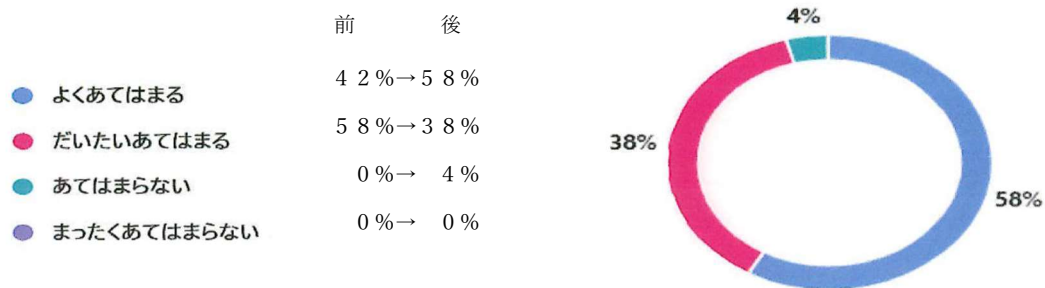
定例会議、企画委員会議を始め、各種会議等、会議のスリム化をはかりながら、計画的に活動することができた。また、児童会活動では、その委員会の長を中心に、組織的に活動しているが、コロナ化後の新しいスタンダードを形成するうえで、急な変更や見直しがあった。しかしながら、来年度以降の見通しは立てることができた。

3. 学校教育目標や経営方針を理解し、達成に向けて具体目標を設定し、積極的に取り組んでいる。



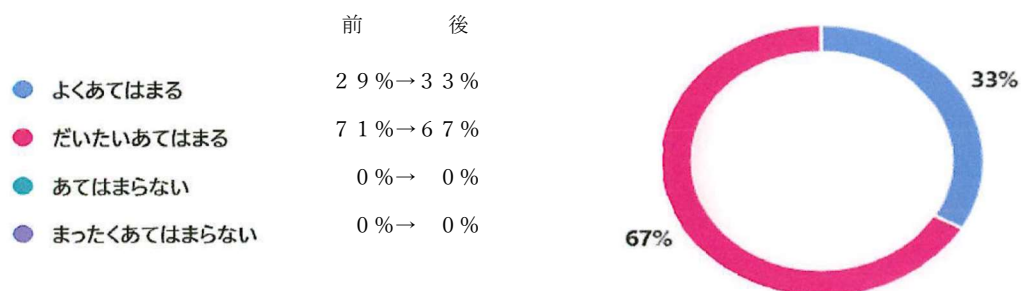
校長の学校経営方針のもと、教職員で共通理解を図り、概ね指導にあたることができた。また、目標申告において、各自が具体的な目標を設定し、積極的に取り組むことができたと考えられる。

4. 校務分掌を理解し、組織の一員として、縦横の連携を大切にし責任をもって取り組んでいる。



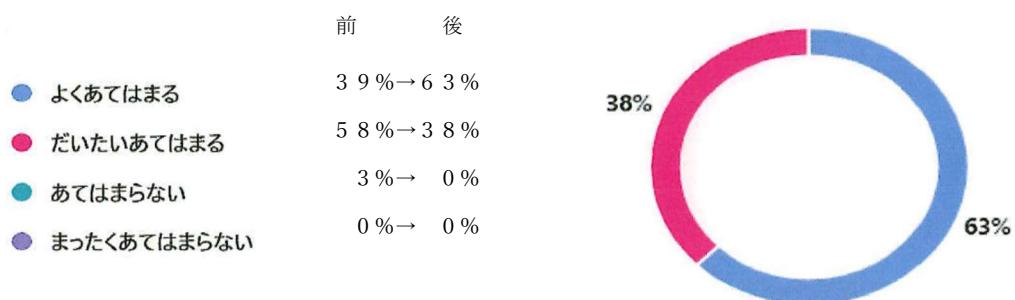
「よくあてはまる」と回答した教職員が、50%以上であった。校務分掌に対しての役割を理解し、責任感をもって対応できている。すべての職員がやりがいと責任感をもって校務に当たれるようにしたい。後期は、人員不足による校務分掌の見直しと再編があった。来年度に向け、しっかりとした教育課程の見直しと引き継ぎ体制のさらなる改善を図っていく。

5. 教材研究に努め、子どもがわかる授業作り、子供たちが基礎的・基本的な学力（読む力・書く力・計算力等）や学んだことを活用する力（思考力・判断力・表現力）が身につく授業作りに取り組んでいる。



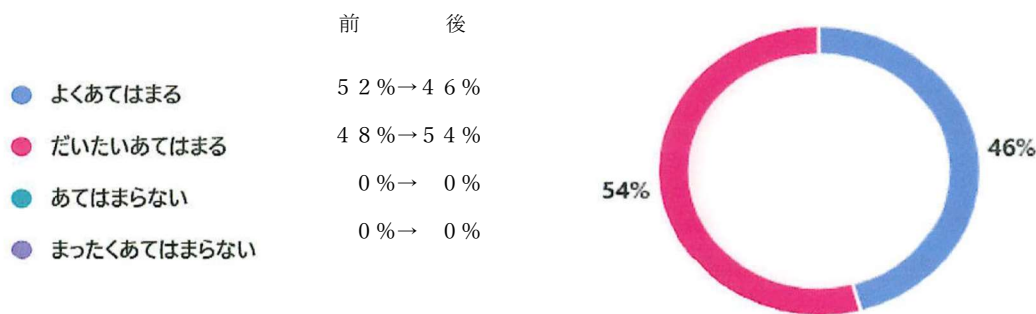
研修教科の国語科を主軸として、教材研究を行っている姿が多く見られた。本年度は、指導室訪問もあり各教科において、子どもがわかる授業作りの研鑽に努めることができた。また、個人での教材研究もさることながら、学年として、効率的に教材研究を進めている場面も多く見られた。

6. 教職員が共通理解をはかり、子供たちが社会の基本的なルールやマナーを守って生活できるように指導に努めている。



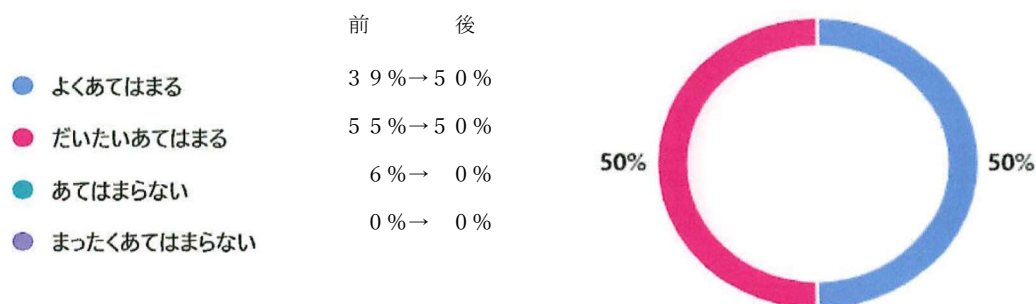
おおむね50%の職員は日頃の指導に心がけている。西志津小の生活のきまりを見直すと共に、常に決まりを念頭に置いて共通理解のもと指導することができていた。後期に生徒指導上のトラブルが多発しが、事後対応や共通理解において迅速で的確な対応ができたと思う。

7. 子どもとの日常的なコミュニケーションを大切にしたり、教育相談を定期的に行ったりして児童理解に努めている。



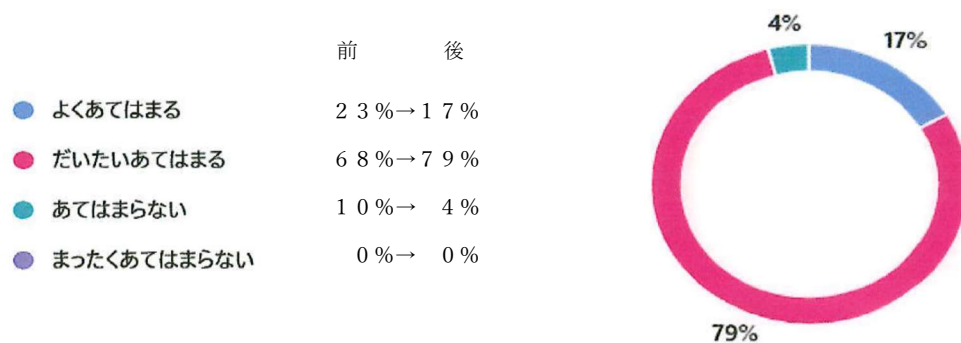
子どもとのコミュニケーションを大切にして行くと共に、教育相談のねらいと目的の共通理解をはかった。また、生徒指導事案に対する教職員の関わり方、指導の仕方についても、研修や打ち合わせをとおしておこなった。来年度は、SOS の出し方教育について、さらに重点をおき児童理解に努めていく。

8. 特別に支援を必要とする子供たちへの理解を深め、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援をしていくための連携に努めている。



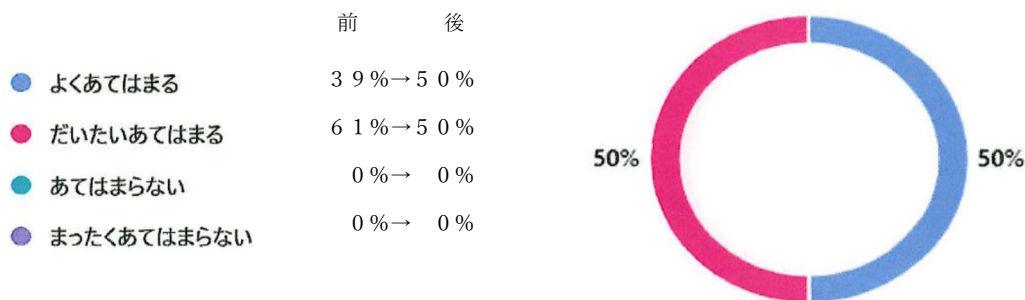
特別支援学級の児童を学校全体でみていることに対する共通理解はできていて、交流学习を行う際には、交流学級担任との打ち合わせも綿密に行い、児童が交流を通して、効果的な学習をすることができるように連携することができた。

9. 教育課程に即した校内研究を行い、表現活動の充実を視点とした授業改善に取り組んでいる。



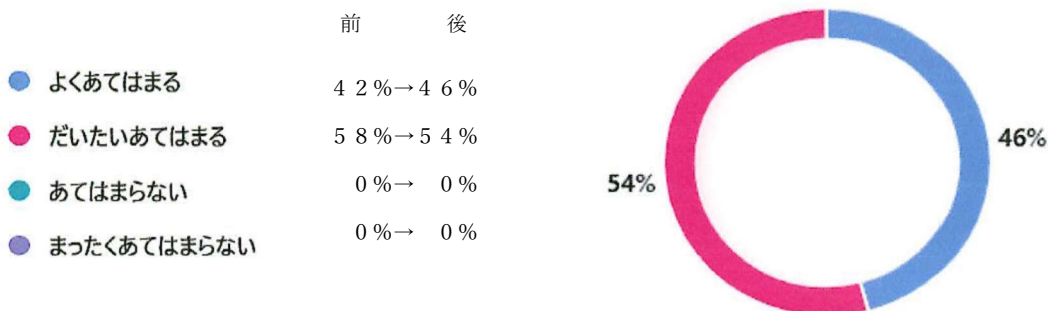
本校は、昨年度に引き続き国語科の表現活動に視点をおいた研究をおこなっている。概ね「あてはまる・だいたいあてはまる」と回答している教職員は約9割を超えている。ただ、「あてはまらない」と回答した職員もいるので、今後は、骨子である手立て等の取り組みについて、その必要性と手立てを具現化する手段についてさらに研修を深めていく必要がある。

10. 学校保健・安全計画に基づいた保健指導や安全指導が実施されている。



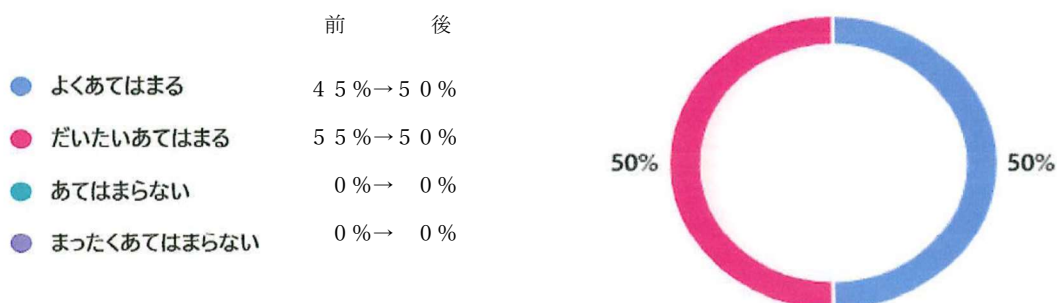
学校保健指導年間計画や学校安全計画に基づいた指導が計画的に行われていると約半数の職員が回答している。外での活動の緩和などではけがや体調不良を訴える児童が増えた。今後は、改めて教育課程内の安全に関する共通理解をこまめに図ると共に、けがや病気の予防（インフルエンザ・コロナも含め）の指導力を伸ばしていく。

11. 教職員共通理解のもと、事件・事故・災害発生時には、速やかに対応できる体制（緊急対応マニュアルと報・連・相）づくりに取り組んでいる。



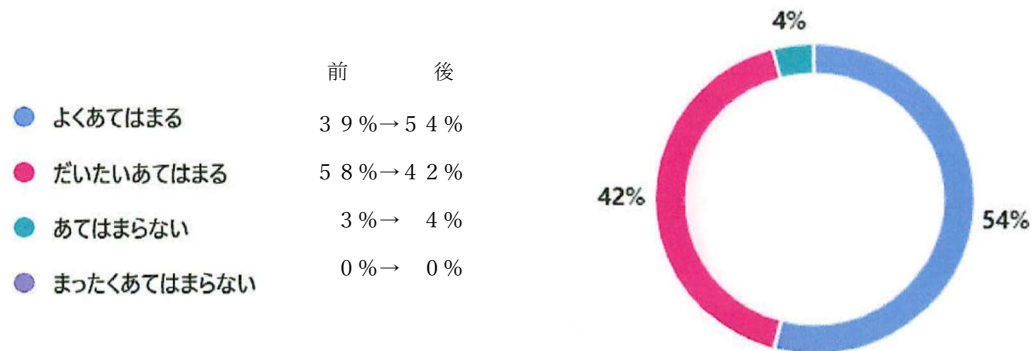
危機管理マニュアルの、変更点や新規追加事項があった時は、口頭だけではなく印刷物を用意し、しっかりと全員が同じ行動・指導がとれるように常に共通理解を図ってきた。今後も、気を緩めることなくしっかりと共通理解に努めていく。

12. 子供たちの生活安全を確保するため、校舎内外の安全点検を定期的に行い、改善を図っている。



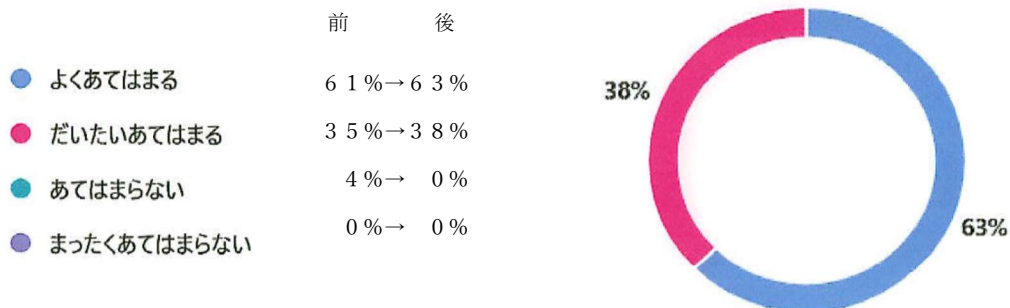
毎月10日を校内安全点検日と定め、全職員で校内の安全点検を行うことができた。また、遊具などの点検に関しては、複数の目で行い、定期的に点検者を変えるなどを行った。校舎の老朽化の進みが思ったより早く、なかなか修繕等が行えていない箇所が多く、安全面に不安を感じる箇所もある。予算等との調整を図りながら安全な学校環境を整えていきたい。

13. 学校行事や学習支援、子供同士のトラブルや悩み、事故などに保護者や地域の方の協力を得ながら取り組んでいる。



保護者や地域の方々の協力を得る機会が増えてきた。ただ、校務分掌上の調整や連携の体制が一度途絶えてしまったことによる余波により、なかなか思うように動けなかったものも存在した。今後は、効果的な実施を目指す工夫を行い、行事や学習支援の在り方を考えていきたい。子ども同士のトラブルや悩みについて、保護者と日頃から連携を密にし、さらに信頼関係を深めていきたい。

14. 学校だよりや学年だより、メール等で保護者や地域にとって必要な情報をきちんと伝えている。



あてはまらなと答えた職員が、前期の調査においては数名いたが、インフルエンザによる学級閉鎖の連絡等、保護者にマチコミメールを発信する際には、必ず教職員に情報共有のメールを流した。また、緊急で重要な内容のメールについては、日に2回確認という形でメール配信を行った。後期は、肯定的な意見への変容が見られた。